

今、
見つめ直す
食の
在り方

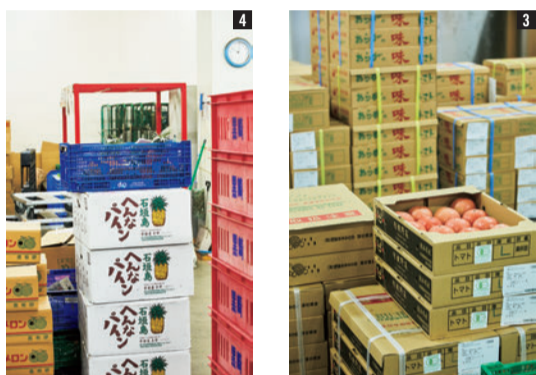
今日も
は安心
を
こころ
ぶし
も

普段、気付かなかったことに気付く。
コロナ禍ではそんなことが少なくないでしょう。
私たちが日々いただく食べ物は、
運ぶ人たちがいることも、ともすれば忘れがち。
今回は、大地を守る会の物流センターへ行き、
運ぶ人たちの想いがこもった
“熱いリレー”に光を当てます。



“リレーの走者”たち。生産者からバトンを受け取り、それぞれの役割を果たしながら華麗にバトンを渡していきます。

責任と想いで つなぐリレー



- 1 検品担当・秋葉丈生。会う人会う人に声をかける明るい性格。物流センターに到着した青果の状態を確認します。
- 2 「今年の梅雨は雨がよく降りましたね。トマトは水を吸収すると割れやすくなるので、割れないかもよく確認します」と秋葉。
- 3 全国各地の大地を守る会の生産者から到着した生産物。なかなか見る機会がありませんが、箱のデザインが違って楽しい。
- 4 輸送の状況により到着が遅れたパインナップルもすぐに状態を確認し、『畑まるごと野菜セット』に入ることで配送に間に合いました。

かきました。

大地を守る会は40年以上、宅配というスタイルで、農業や化学肥料に頼らない野菜をはじめとした安心できる食材をお届けしてきました。自然環境や人の生命を守る野菜を育てたいという生産者。家族に安心できるものを食べさせたい、生産者を応援したいという消費者。両者をつなげ、畑で穫れたその野菜を消費者のもとへ届けるには、「運ぶ人」が必要。そして、食べ物も毎日いただくもの。雨の日も風の日も、運ぶ人たちはその「命の糧」を選び続けているのです。そこで、今回は大地を守る会の物流センターへ。生産者からパトンを受け取り、確実に消費者へ渡す、運ぶ人たちの「リレー」とそこに込められた熱い想いを追いかけてきました。

作る人、食べる人、
そして運ぶ人。

冷静に、
情熱的に。

見る見るうちに空が白む朝の4時半。配送員は6時過ぎの出発に向けて、今日の配送の荷造りを始めています。一方、その頃から9時頃にかけて、配送トラックとは違う別のトラックが入ってきて荷を下ろしていきます。「産地からのトラックですね。野菜は基本的に、昨日収穫したものが今朝こうやってセンターに到着します。さっき来た大きなトラックは、また4時間かけて軽井沢の方へ戻っていきます。遠くは北海道か

ら夜通し走って野菜が届く、夏場は鮮度を保つため温度と時間との闘い。頭が下がる思いです。そう話すのは検品担当の秋葉丈生です。

秋葉の役割は、到着した青果の状態を確認すること。生産者も出荷する際に確認しますが、輸送中に傷みが発生したり広がったりすることがあるためです。「市販品と比べると、大地を守る会の青果は農業に頼らない分、どうしても傷みやすい。見る、嗅ぐ、食べる……いろいろな方法で確認します」。また、輸送の状況により青果の到着が遅れることも。「今はコロナの影響で一般的に物量が多くなっている、この前は真南風



- 5 注文品を配送箱に入れる夜に間に合うよう、夕方までにリバックを終わらせます。トマトや桃などにはリユース可能な小箱も使用。
- 6 この日は夏の風物詩・とうもろこしがいっぱい。リバックする前に、一つ一つ皮を少しむいて状態を再確認します。

- 7 箱詰め担当・熊田直紀。しなやかな強さと純粋な心の持ち主。青果の小分け、注文品の箱入れ、また在庫の管理も行っています。



大地を守る会の生産者が育てた旬の野菜を詰め合わせてお届け
畑まるごと野菜セット

- 1003 1セット (5品目)
1,280円 (税込1,382円)
- 1004 1セット (7品目)
1,780円 (税込1,922円)
- 1005 1セット (9品目)
2,180円 (税込2,354円)
- 1006 1セット (11品目)
2,580円 (税込2,786円)



1005のイメージ

※箱に入らない場合は半分はカットしてお届けする場合があります。
※畑の状況により品目が少なくなる場合があります。
※同時配布の『カタログ大地を守る』とお買い物サイト139号も合わせてご覧ください。



Photo:Taro Terasawa Text:Maiko Oasa Design:Better Days

の会(沖縄県)のパイナップルが遅れて到着しました。配送に間に合うかぎりぎりのタイミング。それに味優先の大地を守る会の青果は、早どりせずに完熟になってから収穫しているので、遅れ過ぎると、消費者に届いた時に熟れ過ぎた状態になってしまうんです。急いでパイナップルの状態を確認して、「畑まるごと野菜セット」に入れるタイミングに間に合いました。生産者が畑で穫った時のままを皆さんの元へお届けしたい。その一心です」

検査の後、大箱で到着している青果を小分けの袋・箱に入れる「リ

私たちが走り続ける理由

近年、物流における人手不足が騒がれています。天候不順や新型コロナウイルスなどの影響もあり、道路事情も雇用も不安定な状況が続いて

- 8 配送担当・秋谷尚秀。人と車が好きで、消費者の皆さんに会いに行くのが楽しい。配送員は、生産者から消費者へ食べ物を運ぶ最後のひと。
- 9 注文品が入った配送箱はもちろん、会員ごとに配布物を準備するのも配送員の仕事。出発前に入念に確認します。
- 10 明るくても暗くても、雨でも雪でも、早朝に出勤。その日の配送の荷造り、配送、片付けまで、各配送員がすべて行います。



「このように準備された配送箱を、翌早朝にトラックに積み込んで配送するのが役目です」と話す配送担当・秋谷尚秀。積み込みが終わった後の朝6時からの朝礼で、その日の天気や道路の状況、気を付ける点などを確認し、いよいよ出発です。「私自身、青果も肉も魚も、心からおいしいと感じています。生産者から消費者へ食べ物を運ぶ最後の者としても、自信を持ってお届けすることが出来ます。そして会員の皆さん、配送中の短い時間ではありますがお話もしてくださりありがとうございます。とても嬉しいです。これから食べ物を通じて、季節感や生産者の想いもお届けしたいと思いたすので、よろしく願っています」

います。大地を守る会の物流センター長・遠田正典は話します。「今年も各地で大雨があったように、雨や雪、台風などの大きな被害が増えていますが、産地での生産にも影響がありますが、私たちも出勤さえ難しい時もあります。でも、食べ物には「命の糧」です。「物流を止めない」。生産者の声にも消費者の声にも応えつつ、安全に確実に食べ物という命をつなぐインフラを守る。それが私たちの一番の仕事です」

生産者から私たち、私たちから皆さんへ、その命をつなぐレレーのアンカーは、消費者である皆さんです。コロナ禍にあっても、畑を感じ、季節を感じ、おいしく食べて、皆さんと畑の自然が元気であり続けることを、大地を守る会は願っています。

- 11 大地を守る会の物流センター長・遠田正典。真面目で、実家が八百屋。物流におけるすべてのチームをまとめます。
- 12 13 14 15 「大地を守る会には安心・安全な食材が全国各地から集まっています。そのものだけでなく、産地のストーリーや人の気持ちまでもお届けしたいです」と遠田。



ソーシャルレポート

今号は、新型コロナウイルスの影響を受けるパレスチナ自治区のオリーブオイルの生産者に支援を実施した「DAFDFAF基金」のレポートです。

海外の生産者の支えになる「DAFDFAF基金」

コロナ禍におけるパレスチナの現状

新型コロナウイルスは世界各地でさまざまな影響をもたらしています。イスラエルとの対立が続くパレスチナ自治区(ガザ地区、ヨルダン川西岸地区)では、2020年3月上旬に初めて新型コロナウイルスの感染が確認され、その後も感染者の数が増え続け、現在も予断を許さない状況です(8月20日現在)。そして、パレスチナ自治区に接するイスラエルは“コロナ対

策”を強化。イスラエルはパレスチナ自治区のヨルダン川西岸地区内の検問所を封鎖するなどしたため、イスラエルからパレスチナ自治区への物流が滞るようになりました。食料や生活用品をイスラエルから購入する状況にあったパレスチナ自治区の人々は物資不足となり、畑や職場に行くなど以前から制限されていた日常的な移動もさらに厳しくなっているのです。

野菜の苗や消毒液などを支援しました

DAFDFAF基金は、海外の交流先である生産者や農業団体の技術や生活の向上を支援し、それぞれの地域の環境と伝統文化を守り育てる有機農業を振興するため、2006年に大地を守る会が設立した基金です。今回はパレスチナ自治区の現状を鑑み、オリーブオイルの生産者団体であるUAWCとPARCに各10万円を送金し(7月29日)、野菜の苗と消毒液や石鹸

などの衛生キットを送りました。パレスチナ自治区では「100万本の野菜の苗を植えようキャンペーン」が展開されており、町の人々は庭や屋上、空き地など空間があればどこにでも工夫して菜園を作っています。世界中がかつてないパンデミックに見舞われている今だからこそ、皆で協力して乗り越えていけるような社会になることを願っています。



- 1 野菜の種をまき、苗にまで育ててから配布します。
- 2 野菜の苗を各地に配布する準備をしているUAWCのスタッフたち。食料を自給することで困難を乗り越えようと頑張っています。
- 3 ラディッシュの苗。
- 4 高温・乾燥という厳しい気候で育つオリーブ。パレスチナでは数千年の歴史があり、パレスチナの人々にとって欠かせないものとして受け継がれています。この畑では「スマイル・オリーブ基金(※)」で購入したオリーブの苗木が育ち、収穫できるようになりました。

※「オリーブオイル(パレスチナ自治区産)」を購入すると、その売り上げの一部が基金への募金となります。



世界の生産者と
有機農業を支えましょう

DAFDFAF基金
4801 1口500円

※「DAFDFAF基金」への募金となります。



イベント

＜オンライン開催＞家庭で簡単にできる発酵料理「台湾料理編」
りんひろこさんの発酵ライブキッチン
2020.9.26(土) 15:00～17:00

「ジャーサラダ」を日本に紹介したりひろこさんは、味噌を何種類も仕込んで使い分けるほどの発酵好き。今回は台湾への留学経験もあるりんさんが、家庭で簡単にできる台湾の発酵レシピをご紹介します。メニューは野菜入りの蒸しパン「花巻」、鶏肉とバジルの炒め物「三杯鶏」、味噌や甘酒を使った漬物「黄金泡菜」の3品。一緒に作り、できあがった料理はそのまま夕食としてどうぞお召し上がりください。

DATA
会場……Zoomにて配信
講師……料理研究家・りんひろこさん
参加費……2,500円(1組)
※参加費は事前振込です。
※材料費が別途かかります。
定員……30名
申込締切……9月16日(水)
主催……大地を守る会 発酵ラボ

大地を守る会
定期会員
限定

りんひろこさん



- 1 今夜はおうちで台湾料理。世界の発酵料理を楽しみましょう。
- 2 「花巻」はくるくるとした形とカラフルさで見た目もかわいい。

『NEWS大地を守る』は
WEBでもご覧いただけます。
イベントの詳細・お申込みも
WEBからどうぞ。

大地を守る会

※イベントについてWEBへのアクセスが不可能な場合は、
ソーシャルコミュニケーション室へ
お電話いただきご確認・お申込みください。

お問い合わせ
オイシックス・ラ・大地 ソーシャルコミュニケーション室
TEL 050-5306-8513
E-mail ord_social@oisixradaichi.co.jp

注意事項
当社は、大地を守る会のイベント及び大地を守る会が告知する他団体のイベントにお申込みいただく際、ご記入いただく個人情報を、お申込み内容に関する確認、参加者への連絡、抽選、抽選結果連絡、お問合せに対する回答、非常時に関する対応、イベントの質向上管理のために利用させていただきます。なお当社は、イベント等を旅行者に業務委託する場合があります。この場合、個人情報を開示することがあります。業務委託にあたっては、個人情報の保護に関する契約を締結し、業務委託先が契約を遵守するよう必要かつ適切な管理及び監督を行います。上記に同意の上お申込みください。個人情報の取扱いに関するその他の条件については、当社ウェブサイトの個人情報保護方針をご確認ください。
<https://takuhai.daichi-m.co.jp/Information/8>

発行 オイシックス・ラ・大地株式会社
東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー5階
TEL 050-5306-8513